様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 6 月 23 日現在

研究種目：基礎研究（C）
研究期間：2006 年度～2009 年度
課題番号：１８５３０７３０
研究課題名（和文）　授業の連携からみた家庭科ならびに栄養教諭に望まれる資質能力と教員育成の研究

研究課題名（英文）Research on the desired qualities and abilities of and the training of home economics and diet and nutrition teachers from the perspective of collaborative classes

研究代表者
尾崎　沙和子（OZAKI SAWAKO）
女子栄養大学・栄養学部・教授
研究者番号：２００７６１７８

研究成果の概要（和文）：食教育において、家庭科教諭と栄養教諭が行う連携の形には、単に「授業」だけでなく「年間指導計画」や「資料作成」等も含め幅広く、様々な協力が可能である。一方それぞれの専門性を深め、独自性を尊重することが大切である。連携力を高めるためには教職に就くための「姿勢」「知識」「指導力」等が不可欠である。大学においては教育実習指導にかかわる内容をより充実させるとともに、学生への適切な働きかけが望まれる。

研究成果の概要（英文）：As a form of collaboration between home economics and nutrition teachers in Food and Eating education, cooperation are possible not only in classrooms conducting lessons but in activities including preparations of an annual curriculum plan and handouts. At the same time, it is important that each teacher respects the expertise and independence of the other. Characteristics such as “attitude”, “knowledge” and “leadership” among prospective teachers are essential in increasing collaboration opportunities. Therefore, it is recommended that universities enhance the content of teaching practices appropriately and also provide an adequate guidance to their students.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	1,100,000	0	1,100,000
２００７年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２００８年度	900,000	270,000	1,170,000
２００９年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総　計	3,500,000	720,000	4,220,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目　教育学・教科教育学
キーワード：家庭科、栄養教諭、アンケート調査、インタビュー、ビデオ教材　連携授業における課題、教師教育、資質能力　教員養成カリキュラム、

１．研究開始当初の背景

(1)栄養教諭制度創設（平成 17 年度）前後は、食教育に長年携わってきた家庭科教諭が制度を認容し難いとする傾向がみられた。そのため研究に先立ち、家庭科教諭と学校栄養職員に対して栄養教諭制度や連携授業についての意識調査を実施した。

(2)その調査結果は女子栄養大学紀要 第 38 号

に掲載された。

①栄養教諭制度創設までの変容や家庭科教諭のこだわりの内容をある程度把握出来た。

②栄養士をもつ本学卒業生家庭科教諭の調査から、家庭科教諭の食育観等が明確になった。

２．研究の目的

本学が家庭科教諭・栄養教諭の教員養成に関わっていることから、題材を両教諭の連携授業に焦点を絞り、教師の資質・能力の向上を目指す教員養成教育の在り方やカリキュラム等について提言する。

３．研究の方法

(1)連携授業について

①家庭科教諭と栄養教諭の連携授業に対する意識の把握（それぞれの専門性と独自性）について質問紙法を利用して行った。

②教職課程履修生のための映像教材の作成と検証（小・中学校の「家庭科」における連携授業）を学校種別に授業を依頼し日常授業の一環として実践したものを、教師の行動・発言を中心に記録した。

(2)栄養教諭の職務の実態

①栄養教諭へのインタビュー（3 都県）を実施した。自校方式並びに共同調理場方式それぞれの栄養教諭に同様の質問を行い回答を得た。

②連携授業実施教諭へのインタビュー（小・中学校）では、実践上の課題を映像とともに記録をして内容を検討した。

(3)本学教職課程の特徴

①女子栄養大学短期大学部（栄養士、栄養教諭二種）では栄養士免許取得とともに栄養教諭二種を取得する過程をシラバスを中心に整理した。

②女子栄養大学栄養学部保健栄養学科（栄養士、家庭科教諭一種、栄養教諭二種）は家庭科教諭免許状と栄養教諭免許状と同じ教職課程を有しながらそれぞれの違いについてシラバスからその違いを検討した。

４．研究成果

(1) 連携授業について

①家庭科教諭と栄養教諭は共に連携による授業について期待し、プラスに評価している。当初の質問紙法による調査結果では、家庭科教諭と栄養教諭にはそれぞれ立場の違いから必ずしも好意的に受け止めているとは言えない実態が明らかになったが、連携授業を実施した教員からは教材研究の深さから授業の質が高まるというような回答や、児童生徒ばかりではなく担任や他教科教員、学校全体に食への関心が高まるというような効果を期待する意見も示された。

②家庭科教諭と栄養教諭はそれぞれの専門性を高め、独自性を尊重し合うことが大切である。家庭科教諭は家庭科の学習目標達成のための専門性を発揮しながら授業を行い、栄養教諭は栄養教諭の回答から「中教審「食に関する指導体制の整備について」」の答申に示された食のコーディネーターとしての役割を強く感じて授業に参画している。

③連携には「授業」だけでなく「年間指導計画」「資料の作成」等、様々な形があることが明らかになった。食に関する指導は学校教育に導入されてからまだ日が浅い。そういった中で栄養教諭の役割として栄養教諭自身が「年間計画」や「食育指導計画」を任され作成している教諭がいる。また授業を行う際に必要な資料や教材を作成することも多く、それらは家庭科教諭との打ち合わせを経て行われることが多い。

④連携授業の映像教材は教員養成の課程において児童生徒の実態把握や学生自身が行う授業研究に有効である。とくに短期大学部での教育実習に向けた授業においてはその授業を事

前に学生自身が学習指導案を立て、授業の構想を持って映像教材をみる学習を行った。その結果のアンケートでは、担任（家庭科主任）と栄養教諭とのかかわり方や、授業そのものの展開技術、準備から配慮する事項まで様々な項目での記述がみられた。実際に教育実習で家庭科を担当することは少ないが小学校教育の中で担任の役割、栄養教諭の役割をみることができるのは、実習準備としてとても肯定的な意見が示されている。

(2)栄養教諭の職務の実態

①栄養教諭の職務の実態は極めて多忙であるが、直接児童生徒に接しつつ授業をすることの喜びを実感している。栄養教諭の職務は「食に関する指導と給食管理」である。通常今までの「学校栄養職員」は主に給食管理を仕事の中心として活躍をしてきた。それだけで十分な仕事量と責任のある仕事である。栄養教諭となった学校栄養職員は（インタビューをお願いした栄養教諭は全員それまで学校栄養職員としての勤務経験があった）食に関する指導を今までの職務に加えて担当することとなり倍の仕事量になった。さらに一人で授業を構成することはなかなか難しく、担任や家庭科教員との連携を求められることがあった。また自校方式と共同調理場方式では学校に滞在する時間や移動にかかわる時間など新たに必要とされる時間が多くなっている。他方、栄養教諭が配置されたという期待感も現場にはあり、各学校で栄養教諭を中心とした授業展開を希望している実態もある。すなわち、栄養教諭は単独の学校だけのことをしているのではなく、複数の学校を担当し、週に１回～２回、巡回指導としてその学校を訪問し、に必要に応じて授業実践があり、給食指導がある。栄養教諭が共通して課題として挙げていることはこれらの活動を進めるための当事者同士の「打ち合わせの時間不足」である。時に応じて立ち話で情報交換や教材作りのアイデアを交換し作成に役立てる。

②栄養教諭はそれぞれの勤務校・勤務地に適応した様々な食教育の工夫をしていることがわかった。様々な地域の栄養教諭に調査を行った結果、地域の産物を地産地消を推進することがおこなわれている。地域の作物をいかに安心して給食に取り入れることができるか、そこから生まれた給食を題材に指導を展開するとそれぞれが地域に応じた食教育の特色が出ている。

(3)教師教育にあたって

①教職において不可欠な「連携するための力作り」の素地は、教員になるための「姿勢」「知識」「 指導力」である。「姿勢」とは別な言葉に言い換えると「情熱」ともいえ、積極的に教育活動に参加する姿がインタビューに応じていただいた先生方、映像教材を作成した際に伺ったことから求められていることが分かった。「知識」とは家庭科教諭においては家庭科の専門的な知識や理解であり、栄養教諭は食に関する知識である。 それらの知識に裏付けられた教材研究が毎日の連携授業、連携した活動に効果的に作用することがインタビューからうかがえる。どちらの教諭も、児童生徒の健全な成長を願う姿は変わらず方向として同じ方向を見て連携の活動が行われていることが分かる。

「指導力」は家庭科、栄養教諭ともに教職としての専門性であり、知識を有機的に授業展開することが「教職」の本分である。これらの力を学生のうちから身につけうることは不可能に近いかもしれないが、映像教材や本研究での調査結果を授業資料とすることで指導力獲得の緒に就くことは可能であると考える。

②家庭科教諭・栄養教諭の養成課程では「教育実習指導」「教育実習」「教職実践演習（平成23年度入学生より実施）」の内容をさらに充実させ、学生を適切にサポートすることが、教員養成にとって大切な課題といえる。すなわち、家庭科教諭は少子化の影響を受け、正規に雇用されている（本採用）教員数はここ数年減少している。その補てんに非常勤の教員が入っている。この教員は本採用と違い、時間で学校間を移動するような勤務体系もあり、こういった教員にいくら授業実践の力量があろうとも実習生の指導は担当できない。家庭科教員を目指す学生が教育実習校を得られない場合も今後発生することも十分考えられる。そういった中では、大学が組織的計画的に教育実習を依頼し実習先を確保することが大切になってくる。

栄養教諭は教育実習が１週間である。この１週間の間に児童生徒理解や学校組織の中での教員の役割、学習指導の計画実施など様々な学習課題を達成しなければならない。事前に実習校を訪問し学校長はじめ関係の教職員に指導を受けることができるように大学として依頼をするなど一人ひとりの実習が効果的に作用する準備を整える必要がある。

短期大学部では栄養士養成と並行して2年間での免許状取得ということになるので実習期間を2週間に延ばして行うことは難しい。さらに、栄養士実習（校外実習）と続けてということも検討する価値はあるが、受け入れる学校とのマッチングが困難な場合（校外実習は栄養士が常勤でいなければ受けられないが、栄養教諭は栄養士が常勤でなくても可能等）があるなど課題が大きい。

いずれにしても、教育実習を終えて大学に戻ってきた本学の学生たちは教職を目指す意欲をさらに高め、進路を考える場となっている。

栄養教育実習では、多くの研究授業が「特別活動」すなわち「学級活動」として食に関する指導の実践を行っている。

（平成18年度～20年度ではおよそ70%）

このことは、養成課程においては特別活動の学習指導案や指導実践を十分学習しておく必要があることが示されている。こういった具体的な取り組みが養成課程に必要とされている。また教員免許法改正に伴い平成23年度入学生から導入される「教職実践演習」にも教育実習の効果をより高めるためのカリキュラムが求められていると考える。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

① 香川明夫、栄養教諭・学校栄養職員のための食育実践マニュアル、学校給食、58/4～58/12、各巻74,75,2008、査読無

② JunkoFujkura,SimakoMuto,YukariTakemi,HitomiOkubo,HisakoTanaka,AkioKagawa,and SatoshiSasaki, The Sakado School-base “Shokuiku”Food and Nutrition Education Project 、Asia-Pacific Journal of Public Health、20巻57～63、2008、査読有

③ 尾崎沙和子、西本憲弘、香川明夫、女子栄養大学紀要、女子栄養大学、査読有、39巻、2008、81-91

④ 香川明夫、心と体をはぐくむ食を目指して、季刊栄養教諭、春号、70～73、2007、査読無

⑤ 香川明夫、本人と学校に求められる栄養教諭の生かし方、教育ジャーナル、46-4、50～53、2007、査読無

〔学会発表〕（計１件）

① 香川明夫、小学生における主観的楽しさと食における家族とのかかわり、日本学校保健学会、2007年9月4日、和洋女子大学

〔図書〕（計２件）

① 江川玟成、香川明夫（共著）、時事通信社、最新教育ワード137、2007、318(218、219)

② 笠原賀子、香川明夫（共著）医歯薬出版、栄養教諭を目指す栄養教育実習ノート、2007、69(1,8)

〔学術研究報告書〕
尾崎沙和子、西本憲弘、香川明夫
授業の連携からみた家庭科ならびに栄養教諭に望まれる資質能力と教員育成の研究、2010、瑞穂印刷

６．研究組織
平成 18 年度
(1)研究代表者
小澤　滋子（OZAWA　SHIGEKO）
女子栄養大学・栄養学部・教授
研究者番号：90138529
(2)研究分担者
尾崎　沙和子（OZAKI　SAWAKO）
女子栄養大学・栄養学部・教授
研究者番号：20076178

平成 19 年度（申請時）
(1)研究代表者
小澤　滋子（OZAWA　SHIGEKO）
女子栄養大学・栄養学部・教授
研究者番号：90138529
(2)研究分担者
尾崎　沙和子（OZAKI　SAWAKO）
女子栄養大学・栄養学部・教授
研究者番号：20076178
西本　憲弘（NISHIMOTO　NORIHIRO）
女子栄養大学短期大学部・教授
研究者番号：40255146
香川明夫（KAGAWA　AKIO）
女子栄養大学短期大学部・准教授
研究者番号：80442086

平成 19 年度（研究組織変更 H19.6.22 以降）
(1)研究代表者
尾崎　沙和子（OZAKI　SAWAKO）
女子栄養大学・栄養学部・教授
研究者番号：20076178
(2)研究分担者
西本　憲弘（NISHIMOTO　NORIHIRO）
女子栄養大学短期大学部・教授
研究者番号：40255146
（H19→H20：連携研究者）
香川明夫（KAGAWA　AKIO）
女子栄養大学短期大学部・准教授
研究者番号：80442086
（H19→H20：連携研究者）